

【都市と美術研究所】2026年1月27日 発表要旨

エドワード・ホッパーの版画作品とその評価 —美術館におけるコレクション形成の視座から

Edward Hopper's Prints and Their Reception:
From the Perspective of Museum Collection Formation

山口菜月（福島県立美術館 学芸員）

Yamaguchi Natsuki

Curator, Fukushima Prefectural Museum of Art

エドワード・ホッパー（1882-1967年）は20世紀アメリカを代表する画家の一人である。アメリカの都市や郊外を描いた油彩作品でよく知られているが、画業初期に3度にわたるヨーロッパ遊学を経験し、帰国後はフランスを想起させる作品を度々制作している。その後、版画の制作に取り組み始めたことを転機に「アメリカ的」なモティーフを描くようになったとされるが、版画制作においてもフランスの影響を感じさせる作品を継続的に制作していたことはこれまでの研究において看過されてきた。本発表では、ホッパーによる滞欧期の作品やフランス絵画との比較を通じて、フランスを主題とする版画作品に描かれたモティーフの着想源について分析し、ホッパーの画業において持つ意義について検討する。

さらに、これらの作品が見過ごされてきた背景について、ホッパーが「アメリカン・シーン」派の画家として評価されるようになった当時の言説や、過去の展覧会における作品の位置付けから考察する。また、ホッパーが画家として評価されるようになった1920-30年代は、ニューヨーク近代美術館やホイットニー美術館の草創期と時を同じくする。美術館のコレクション形成の力学がホッパーの評価にいかなる影響を与えたのかについて検討する。

本発表の最後には、日本国内においてホッパー周辺のアメリカ絵画を鑑賞できる美術館として福島県立美術館のアメリカ美術コレクションについて取り上げる。福島県立美術館にはジョン・スローンやレジナルド・マーシュなどホッパーとも関わりの深い画家の作品が収蔵されており、国内の公立美術館の中でも類を見ないアメリカ具象絵画のコレクションが形成された背景について考察する。

プロフィール：

山口 菜月 やまぐち・なつき

福島県立美術館学芸員。早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了。2024年より現職。専門はアメリカ近代美術。担当した主な展覧会は「ポップ・アート 時代を変えた4人」（2024年）、「生誕140年 竹久夢二のすべて 画家は詩人でデザイナー」（2025年）、「大ゴッホ展 夜のカフェテラス」（2026年）。